

## 『凜として愛』

一、  
遙か神代から、受け継ぎし我が祖国  
幾千年の時を越えて  
やおよすの神と英霊に護られ  
八百万の神と英霊に護られ  
日はまた昇る、明日の日本へ  
いま、国難に、凜と立ち上がる  
やまと魂、胸に抱きつつ  
大和の魂、胸に抱きつつ  
可憐な花よ、撫子の花  
けだか、清く、乙女の心  
気高く、清く、乙女の心  
教導えよう我が子等へ、『日本の誇り』を  
繋ごう未来へ、輝く歴史を

### 【語句の解説】

神代……神々が統治していた神武天皇以前の時代。  
祖国……自分の国。母国。  
八百万の神……日本を守護する多くの神々。  
英霊……国に尽くした人々の霊・魂。  
国難……国の危機。国の災難。  
凜と……心身が引き締まった状態。毅然(きぜん)と。

かしこ おおきみ  
畏き 天皇と築きし我が祖国  
いくせんねん とし  
幾千年の歳を重ね  
きせつ いろど  
季節が彩る、美しい山河よ  
それい ねむ  
祖霊が眠る、愛しき故郷よ  
いま たたか  
今、戦いに、凜と立ち上がる  
やまと たましい むね  
大和の魂、胸に抱きつつ  
さくら はな ますらお  
桜の花は、益荒男の命  
ちゆ はな くに ほま  
散り逝く花も国の誉れぞ  
つた わ  
教導えよう我が子等へ、『日本の心』を  
つな みらい  
繋ごう未来へ、愛する日本を  
あい にほん  
愛する日本を

### 【語句の解説】

可憐な……可愛らしい。いじらしい。  
撫子の花……淑(しと)やかで我慢強い日本女性を  
たとえる上で使われる花。  
畏き……恐れ多い。尊い。  
おおきみ(大君)……天皇の別の呼び名。古称。  
祖霊……先祖の霊。  
益荒男……雄々しく勇ましい男。  
誉れ……名誉。誇り。